

～継続は力なり～ 年の瀬の風景



街はクリスマス一色に(写真のように校内も↑)、令和4年が象徴した「戦」の年も瀬を迎える頃となりました。本校でも、11月末より3年生は特編授業が生まれ共通テストまでの残り1か月の準備を進めています。令和4年、理不尽な戦いや政治的不安定要素もある、さまざまな意味合いで戦いの渦中の年だったかもしれません。そんな中、元気になった「戦い」もありました。サッカーワールドカップから勇気と希望をもらい、諦めない1ミリの精神に日本人らしさや実直に物事に向かう姿勢を誇らしく感じたところです。さて、年末の12月、恒例行事に参加しながら、「継続する」ことの深い意味を感じております。①12/17 北信高等学校リーダーズコール「第26回メサイア演奏会」(ホクト文化ホール)。これは私が音楽教員として少人数合唱部の生徒たちでもオーケストラ伴奏で大きなステージでクリスマス時期にメサイアを歌う経験をさせてあげたいという、ライフワークにもなった活動。26年間、事務局・ソリスト・指揮者を経て今回は客観的に生徒の活動を拝聴。途中コロナで1回断念、昨年はコロナ禍様式で何とか復活。生徒たちの素晴らしい努力と演奏に、続けることの意味がここにあったことを実感。②第17回高校美術教員による美術展 QUEST(ホクト文化ホールギャラリーにて)美術の教員がご自身と向き合った成果作品を展示。心の叫び、感情、愛が突き刺さるように響いてくる展覧会。他県では「美術の教員が絵なんか描いているな」と、そんな言われ方をされていると聞き残念極まりない。私達芸術教員は自身がこのような活動をすることで生徒にも伝えられることがある。その後ろ姿から感じてもらうことも大切な教育であろうと私は考える。17年続いていることの意味を実感。③ながの第九合唱団・東京交響楽団による「第九演奏会」(ホクト文化ホール)12/24 ホクト文化ホール自主事業として県民がかかわる演奏会(今年は観客として)。プロの演奏家との競演は、年の瀬の恒例として位置づいた。長野市が最初に第九演奏会を開催してからかなりの年月が経過。私も当初より何度も練習ピアニストとして、また歌手としても参加。特に感慨深い第九は1998年「長野オリンピック」でのスタジアムでの大合唱。市民が継続して心合わせて歌えるこういった行事、永年続いてほしいと願う。12月24・25日には書道部の「第14回銀河書展」を松本市美術館で開催いたします。こちらも継続は力！生徒たちの力作をぜひご覧ください。

探究学習交流！ 刺激が成長への第一歩となる

松本県ヶ丘高校2年探究科2クラスの皆さんと、本校2年生全員が12月13日に探究の交流会を実施いたしました。このように「学校の枠を超えて」交流する、探究のプロフェッショナルである同世代と、得たものを惜しげもなく交換しあうこと。あまり聞いたことのない画期的な取り組みが実施されました。本校生は県ヶ丘の皆さんのプレゼン力にびっくりしながらも、「技を盗もう」と、からだ全部を目と耳にして交流していました。素晴らしい機会！協力いただきました県ヶ丘の皆様、ありがとうございました

